

# 平成 28 年度 言語文化生涯学習講座

## これからの「知」を考える

今、日本の教育は大きく変わりつつあります。グローバル化や少子高齢化など、急速に進む社会の変化に対応できる人材が強く求められるようになりました。キーワードは「課題発見・解決能力」。

11 回目を迎えた今年度の言語文化生涯学習講座では、こうした人材育成の課題について、様々な視点からの「投げかけ」を試みます。大学で教養科目を担当する教員が、哲学・教育・言語・文化の「知」を題材に、4 日間連続で語ります。どうぞ奮ってご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

回	日時	タイトル	講師
1	3月6日(月) 18:00~19:30	古典作品を読む——プラトン『メノン』(3)	おおくさ てるまさ 大草 輝政
2	3月7日(火) 18:00~19:30	英語圏の政治漫画を通じて 2016 年を振り返ろう	R.スチュワート
3	3月8日(水) 18:00~19:30	国際学力調査からみる日本の教育	ふじい のぶあき 藤井 宣彰
4	3月9日(木) 18:00~19:30	英学の痕を辿る：教材の書き込みを頼りに	うまもと つとむ 馬本 勉

開催日時：平成29年3月6日(月)・3月7日(火)・8日(水)・9日(木)

いずれも 18:00~19:30 (90 分間)

会場：県立広島大学 庄原キャンパス CALL 教室 (2号館5階2502講義室)

対象：言語、文化、教育に関心をお持ちの一般の方

定員：各回とも30名(申し込み先着順)

受講料：無料

申込方法：次の(1)~(4)を明記の上、平成29年2月28日(火)までに、はがき、ファックス、電子メールのいずれかで、県立広島大学庄原地域連携センターまでお申し込みください。

(1) 名前(フリガナ) (2) 住所 (3) 電話番号

(4) 受講希望回(※4日間の講座のうち、ご希望の回のみ受講可)

申込・問合せ先：〒727-0023 庄原市七塚町 562 番地 県立広島大学庄原地域連携センター  
電話：0824-74-1000 (総務課 地域連携担当) ファックス：0824-74-1704  
電子メール：[gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp](mailto:gakujutu@pu-hiroshima.ac.jp)

## ◆各講座の内容◆

### 第1日) 大草 輝政 古典作品を読む——プラトン『メノン』(3)

前々回、前回に続いてプラトンの対話篇『メノン』を味わってみたいと思います。テーマは「人間の徳(=善さ、卓越性)は教えられるか」。しかし対話は、時に思わぬ方向へと深化し、また広がり、「万人は善を望むか」「知らないものをどのように探求するか」「徳は知識か」などの問いを誘発しながら展開します。本講座では「徳の教師などいないのでは？」との疑念が表明される箇所をざっと見届けた上で、本作品全体の読みどころを振り返ります。今日米国トップ大学の課題図書に一番選ばれているというプラトン。そのわけに迫れたらと思います。

### 第2日) R. スチュワート 英語圏の風刺漫画を通じて2016年を振り返ろう

現在、文字と絵を組み合わせた情報は、ネット上やあらゆる出版物にあふれています。中には、絵を理解できないと全体の意味が伝わらない場合も多くあります。文字と絵を組み合わせた情報に対する「リテラシー」が必要な時代に入ったということでしょう。もちろん、言語と同じく、文化圏および国によって使われる絵(文化的流行・シンボル・比喩・見立て・視覚化された語呂合わせ)は異なります。講座では、昨年主なニュースを振り返りながら、英国や米国で人気の文字と絵からなる表現である風刺漫画を読み解きます。今回、特にアメリカの大統領選に関するものに注目します。この漫画を通じて言葉だけでは見つからない英語圏の文化との対話を、比較文化的に楽しんでみましょう。(講座は日本語で行いますので英語力は問いません。)

### 第3日) 藤井 宣彰 国際学力調査からみる日本の教育

近年、いじめ、虐待、体罰など教育に関する心痛むニュースをよく目にします。これらの出来事が様々な教育改革を進める要因となっています。日本の教育の現状はそれほど危機的なもので、早急に改革をしないとイケない状況なのでしょうか。2016年の年末に、TIMSSとPISAという国際学力調査の2015年調査結果が公表されました。その結果から、日本の教育の現状がどのようになっているのか、また、今後どのような方向へ向かおうとしているのかみてみたいと思います。

### 第4日) 馬本 勉 英学の痕を辿る：教材の書き込みを頼りに

日本における英語教育は、今から約200年前に始まります。幕末以降、英語によって日本にもたらされた学問を総称して「英学」と呼びますが、明治初期には「英学熱」とよばれるほどのブームが起こり、各地に広がっていきます。海外に目を開こうとする人々が急増した明治時代。激動の時代を生きた明治人の英語学習法は、現代への示唆に富むものと思われます。今回の講座では、実際に使用された教科書や独習書に見られる「書き込み」を頼りに、当時の英語学習の痕を辿ってみたいと思います。